

秘

海軍公報號外(位勳)

昭和二十年一月二十二日(月)  
海軍大臣官房

<p>○ 叙 位</p> <p>○ 昭和十九年七月二十日 海軍少尉 井上 秀雄</p> <p>○ 昭和十九年十月十九日 海軍中尉 川田 武司 同 西川 憲男</p> <p>○ 昭和十九年十一月四日 海軍少尉 中野 敬夫</p> <p>○ 昭和十九年十一月六日 海軍中尉 小畑 次郎</p> <p>○ 昭和十九年十一月八日 海軍中尉 中山 文作</p> <p>○ 昭和十九年十一月九日 海軍少尉 竹谷 清澄</p> <p>○ 昭和十九年十一月十三日 海軍少佐 刈谷 勉</p> <p>○ 昭和十九年十一月十四日 海軍中尉 岸野 義雄 同 小柳 唯男</p> <p>○ 昭和十九年十一月十五日 海軍中尉 山口 隆</p> <p>○ 昭和十九年十一月十七日 海軍中尉 島海 芳雄</p> <p>○ 昭和十九年十一月十八日 海軍技術少尉 西山 隆博</p> <p>○ 昭和十九年十一月十九日 海軍大尉 山井 達雄</p> <p>○ 昭和十九年十一月二十日 海軍中尉 多昌 政治</p> <p>○ 昭和十九年十一月二十一日 海軍大尉 北村 利雄</p> <p>○ 昭和十九年十一月二十二日 海軍大尉 坂本 博 同 渡邊 子龍</p>	<p>○ 昭和十九年十一月十三日 海軍少佐 刈谷 勉</p> <p>○ 昭和十九年十一月十四日 海軍中尉 岸野 義雄 同 小柳 唯男</p> <p>○ 昭和十九年十一月十五日 海軍中尉 山口 隆</p> <p>○ 昭和十九年十一月十七日 海軍中尉 島海 芳雄</p> <p>○ 昭和十九年十一月十八日 海軍技術少尉 西山 隆博</p> <p>○ 昭和十九年十一月十九日 海軍大尉 山井 達雄</p> <p>○ 昭和十九年十一月二十日 海軍中尉 多昌 政治</p> <p>○ 昭和十九年十一月二十一日 海軍大尉 北村 利雄</p> <p>○ 昭和十九年十一月二十二日 海軍大尉 坂本 博 同 渡邊 子龍</p>	<p>○ 昭和十九年十一月二十四日 海軍中尉 山本 旭 同 古庄 保 同 會和 敏章</p> <p>○ 昭和十九年十一月二十九日 海軍大尉 田村 收</p> <p>○ 昭和十九年十一月二十九日 海軍主計少尉 寺田 重</p>
---	--	--

秘海軍公報 號外(位勳)





<p>○昭和十九年十二月二日 海軍大尉 美田 和三 敘正七位</p> <p>海軍中尉 横尾 桂三 敘從七位</p> <p>○昭和十九年十二月三日 海軍少佐 小泉 正司 敘從六位</p> <p>○昭和十九年十二月四日 海軍少尉 小野 六郎 敘正八位</p> <p>○昭和十九年十二月五日 海軍中尉 山田 逸 同 森田 豊 同 若槻 清一 同 鶴野 建一 敘從七位</p> <p>○昭和十九年十二月七日 海軍中尉 實田 豊治 敘從七位</p> <p>○昭和十九年十二月九日 海軍中尉 大谷恒太郎 敘從七位</p>	<p>○昭和十九年十二月十一日 海軍少佐 村松 功 敘從六位</p> <p>海軍大尉 清水 佐市 敘正七位</p> <p>海軍中尉 多田 新一 同 櫻井 宏司 敘從七位</p> <p>○昭和十九年十二月十二日 海軍少佐 村上 八郎 敘從五位(特旨ヲ以テ位一級被進)</p> <p>○昭和十九年十二月十四日 海軍少尉 内田 勉 敘正八位</p> <p>○昭和十九年十二月十五日 海軍中將 三輪 茂義 同 岡 新 同 岡 敬純 同 原 忠一 同 福留 繁 海軍大佐 山田 敏世 敘從四位</p>	<p>(通各) 海軍少佐 河田 敬一 同 寺坂伊之吉 同 原 喜一 同 藤木仁四郎 同 川辺菊次郎 敘從五位</p> <p>(通各) 海軍少佐 田口助次郎 同 田村 政市 同 武内松三郎 海軍少佐 入江 静則 海軍警部 阿部 粹 敘從六位</p> <p>敘從七位 左記進級又ハ任官セル者ニシテ相當位以上ノ位ヲ有セザル者ハ十二月十五日附各官相當位ニ叙セラレタリ 昭和十九年十一月一日進級ノ 海軍中佐 廣木 武以下 同昭和十九年十一月一日任官ノ 海軍軍醫中尉 尾上 弘若以下 海軍中將 柳原 博光 敘正三位(特旨ヲ以テ位一級被進)</p>
--	---	---

<p>○昭和十九年十二月二十日  <small>(通各)</small> 海軍中尉 田中通久仁  <small>(通各)</small> 同 鈴木 金彌          叙從七位</p>	<p>○昭和十九年十二月二十八日          海軍技師 高田 豊成          海軍技師 關屋 博          叙正六位          叙從六位</p>	<p><small>(通各)</small> 海軍司政官 佐々木仁一          海軍技師 近藤 義雄          同 林 明          同 佐藤 太郎          同 安藤 仁          叙正七位</p>	<p><small>(通各)</small> 海軍司政官 齋藤 強          同 高鍋三千雄          同 酒井 重記          同 笹目 三徳          同 藤田貞之助          海軍教授 淺野 武夫          海軍技師 御園 幹雄          同 引頭 寅彦          同 西 要志彦          同 島田卯一郎          同 渡邊 征</p>
<p>同 關本 一雄          同 杉山 陽造          同 堀澤 利公          叙從七位</p>	<p>昭和十九年十一月十五日進級セル海軍少佐加藤貞次以下ニシテ相當位以上ノ位ヲ有セザル者ハ十二月二十八日附各官相當位ニ叙セラレタリ          ○昭和十九年十二月二十九日          海軍技師 田島 千七          叙從六位</p>	<p>○昭和十九年十二月三十日          海軍大佐 松村 積徳          叙從四位(特旨ヲ以テ位一級被進)</p>	<p><small>(通各)</small> 海軍大佐 春日 武          同 竹下 嚴雄          叙正五位(特旨ヲ以テ位一級被進)          ○正誤          昭和十九年十二月四日(秘)海軍公報號外 掲載海軍中尉小野寺喜三郎ニ對スル叙位(正七位)ハ從六位ノ誤</p>













# 海軍公報 第四九三〇號

昭和二十年二月十三日(火)  
海軍大臣 陸房 20. 23

## ○令 達

内令第一〇三號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改  
正セラル

昭和二十年二月五日

海軍大臣 臣

横須賀鎮守府ノ部中第二〇三海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第二〇五海軍航空隊

藤枝航空基地(静岡縣志太郡)

同部中第三〇二海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第三〇二海軍航空隊

厚木航空基地(神奈川縣高座郡)

吳鎮守府ノ部中第一三二海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第一三二海軍航空隊

松山航空基地(愛媛縣温泉郡)

第一三三海軍航空隊

松山航空基地(愛媛縣温泉郡)

佐世保鎮守府ノ部中第七六三海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第七六五海軍航空隊

鹿屋航空基地(鹿児島縣鹿屋市)

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第一〇四號

昭和十八年内令第一二號航空基地管理ニ關スル件申左ノ通改正  
ス

昭和二十年二月五日

海軍大臣 臣

「沖繩海軍航空隊」ヲ「第九五一海軍航空隊」ニ改メ

「元山航空基地」ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

官房空機密第二八〇號

海軍練習航空隊教育綱領申左ノ通改正ス

昭和二十年二月十日

海軍大臣 臣

第二十條ニ左ノ二號ヲ加フ

七 射撃術専修者

科	日	項	日	記	事
本	一	空	戰	術	
		射撃兵器理論 射撃兵器及其ノ 射撃法 空戰法		檢査整備法 機上作業ヲ實 施スルモノト	

秘海軍公報 第四九三〇號 昭和二十年二月十三日

一四七

1789

官房人機密第八六號 佐世保領守府司令長官ハ左表ニ依リ通信科豫備補習生ヲ採用ス		八 搭乗整備術專修者				八 搭乗整備術專修者			
		補科	科	本	科	補科	科	本	科
四 普通學	三 兵術	二 空戰術	一 飛行機整備術	飛行機整備術 航空工學 飛行機整備術 基地兵器務	二 飛行機整備術	三 偵察術	四 兵術	五 普通學	飛行機整備術
シ 水平爆撃操縱術專修者ニ同		射撃兵器大要 空中戰術法	機上作業ヲ實 施スルモスト	機上作業ヲ實 施スルモスト	水平爆撃術專修者ニ同シ		機體發動機及「プロペラ」ノ 整備取法及「電氣諸裝置整備 取法」 航空計器及電氣諸裝置整備 取法 飛行機及發動機性能試験大 要		

(内令提要卷二、四七五頁参照)

官房人機密第八七號 横須賀領守府司令長官ハ左表ニ依リ通信術甲種又ハ乙種豫備練 習生ヲ採用スベシ 昭和二十年二月十二日 海軍大臣				官房人機密第八七號 横須賀領守府司令長官ハ左表ニ依リ通信術甲種又ハ乙種豫備練 習生ヲ採用スベシ 昭和二十年二月十二日 海軍大臣							
採用範圍	出願期限	時期	場所	採用時期	採用員數	採用範圍	出願期限	時期	場所	採用時期	採用員數
一 無線電信講 習所第一部高 等科生徒 二 同普通科生 三 同所第二部 高等科生徒	昭和二十年 二月十五日	昭和二十年 二月下旬	無線電信 講習所日 黒本所	昭和二十年 二月下旬	約一五〇名 約二〇名 約六〇名	一 無線電信講 習所第一部特 等科生徒 二 無線電信講 習所第一部特 等科生徒 三 無線電信講 習所第一部特 等科生徒 四 無線電信講 習所第一部特 等科生徒	昭和二十年 三月十五日	昭和二十年 二月下旬	無線電信 講習所日 黒本所	昭和二十年 二月下旬	約一五〇名 約二〇名 約六〇名



官房教機密第七二號

昭和二十年二月十二日

海軍大臣

各領守府  
大阪警備府  
大湊警備府  
鎮海警備府  
高砂警備府  
司令長官殿

新兵海兵團体操巡回講習ノ件訓令  
首題ノ件左記ニ依リ實施スベシ

記

講習實施	實施期間	場所	講習員	指導官	講習項目
海兵團	自三月十九日 至三月二十五日	各關係 海兵團	體操指導 横砲校教官 二名	一 海軍體操 二 體操指導 三 其ノ他指 導官ノ必要 ト認ムルコ ト	一 領海團、高雄團ハ参加可能ナル場合ハ准士官以上一、下士 官兵二ヲ相浦團ニ派遣参加セシムルコトヲ得 二 横砲校、航校、航校分校、電測校、對潜校、横作校、招作 校、防通校、津校、戸塚病院練習部、賀茂病院練習部ハ體 操指導ニ充ツベキ者ヲ適宜武山團或ハ大竹團ニ派遣参加セ シムルコトヲ得 三 指導官(同附) 竝ニ派遣員ニ對スル旅費ハ請求ヲ俟ツテ 別途配付ス
武山團、濱 名團、大阪 團(田邊分 團ヲ含ム)	自三月十六日 至三月二十日	各關係 海兵團	體操指導 横砲校教官 二名	一 海軍體操 二 體操指導 三 其ノ他指 導官ノ必要 ト認ムルコ ト	一 領海團、高雄團ハ参加可能ナル場合ハ准士官以上一、下士 官兵二ヲ相浦團ニ派遣参加セシムルコトヲ得 二 横砲校、航校、航校分校、電測校、對潜校、横作校、招作 校、防通校、津校、戸塚病院練習部、賀茂病院練習部ハ體 操指導ニ充ツベキ者ヲ適宜武山團或ハ大竹團ニ派遣参加セ シムルコトヲ得 三 指導官(同附) 竝ニ派遣員ニ對スル旅費ハ請求ヲ俟ツテ 別途配付ス
大竹團、安 自三月十七日 至三月二十日	自三月十七日 至三月二十日	各關係 海兵團	體操指導 横砲校教官 二名	一 海軍體操 二 體操指導 三 其ノ他指 導官ノ必要 ト認ムルコ ト	一 領海團、高雄團ハ参加可能ナル場合ハ准士官以上一、下士 官兵二ヲ相浦團ニ派遣参加セシムルコトヲ得 二 横砲校、航校、航校分校、電測校、對潜校、横作校、招作 校、防通校、津校、戸塚病院練習部、賀茂病院練習部ハ體 操指導ニ充ツベキ者ヲ適宜武山團或ハ大竹團ニ派遣参加セ シムルコトヲ得 三 指導官(同附) 竝ニ派遣員ニ對スル旅費ハ請求ヲ俟ツテ 別途配付ス
相浦團、針 自三月十七日 至三月二十日	自三月十七日 至三月二十日	各關係 海兵團	體操指導 横砲校教官 二名	一 海軍體操 二 體操指導 三 其ノ他指 導官ノ必要 ト認ムルコ ト	一 領海團、高雄團ハ参加可能ナル場合ハ准士官以上一、下士 官兵二ヲ相浦團ニ派遣参加セシムルコトヲ得 二 横砲校、航校、航校分校、電測校、對潜校、横作校、招作 校、防通校、津校、戸塚病院練習部、賀茂病院練習部ハ體 操指導ニ充ツベキ者ヲ適宜武山團或ハ大竹團ニ派遣参加セ シムルコトヲ得 三 指導官(同附) 竝ニ派遣員ニ對スル旅費ハ請求ヲ俟ツテ 別途配付ス
尾團、大湊 自四月七日 至四月十七日	自四月七日 至四月十七日	各關係 海兵團	體操指導 横砲校教官 二名	一 海軍體操 二 體操指導 三 其ノ他指 導官ノ必要 ト認ムルコ ト	一 領海團、高雄團ハ参加可能ナル場合ハ准士官以上一、下士 官兵二ヲ相浦團ニ派遣参加セシムルコトヲ得 二 横砲校、航校、航校分校、電測校、對潜校、横作校、招作 校、防通校、津校、戸塚病院練習部、賀茂病院練習部ハ體 操指導ニ充ツベキ者ヲ適宜武山團或ハ大竹團ニ派遣参加セ シムルコトヲ得 三 指導官(同附) 竝ニ派遣員ニ對スル旅費ハ請求ヲ俟ツテ 別途配付ス

○ 通 牒

兵備二機密第二五九號

昭和二十年二月十二日

海軍省兵備局長  
海軍省經理局長

關係各廳長殿

アルミ貨ノ全面的引換ニ關スル件通牒  
航空機用アルミニウム増供ノ爲今般次官會議ニ於テアルミ貨  
ノ全面的引換ヲ實施スルコトニ決定セラレ候條左記ニ依リ至急  
處理相成度

追テ防諜其ノ他對外的影響ヲ考慮シ本件ノ新聞發表等ノ外部  
の宣傳ハ之ヲ行ハレザルニ付含ミ置カレ度

記

- 一 引換ノ對象  
アルミ貨ノ全部トス
- 二 引換ノ期日  
二月ヲアルミ貨全面引換期間トスルコト
- 三 引換ノ方法  
各廳長ハ部内アルミ貨所有者ニ之ガ引換方ヲ強力ニ勸奨シ出  
納官吏ヲシテ最寄銀行ト連絡ヲ執ラシメ錫貨小額紙幣又ハ銀  
行券ト引換フル様措置スルコト

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報 第四九三一號

昭和二十年二月十四日(水)

海軍大臣 官房

20. 23

命令 達

内令第一〇六號

航空戦力査閲規程左ノ通定ム

昭和二十年二月八日

海軍大臣

航空戦力査閲規程

第一條 航空戦力査閲ハ大東亞戰爭中航空部隊ニ就キ其ノ戦力ノ程度ヲ査定視閲シ以テ教育訓練及戰備ノ計畫及實施ヲ適切ナラシメ戦力ノ急速向上ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 航空戦力査閲ハ海上護衛司令長官、鎮守府司令長官、艦隊司令長官、警備府司令長官又ハ海軍練習聯合航空總隊司令官査閲官ト爲リ適宜ノ時機ニ於テ部下ノ航空部隊ニ就キ之ヲ行フモノトス

第三條 航空戦力査閲官タル司令長官又ハ司令官情況必要ト認ムル場合ニ於テハ部下ノ將校ヲシテ其ノ部隊ノ査閲ヲ代閱セシムルコトヲ得

第四條 航空戦力査閲官又ハ代閱官タル司令長官若ハ司令官ハ査閲ニ際シ戦力ノ程度ヲ査定スルニ必要ト認ムル教練作業ヲ課スルヲ例トス

第五條 航空戦力査閲ヲ施行スルトキハ所屬長官ハ部下諸員ニ委員及委員附ヲ命ジ航空戦力査閲ニ關スル成績審査ノ要務ヲ分掌セシムルヲ例トシ又協議ノ上他ノ司令長官ノ部下及左ノ各部ノ職員ヲ委員及委員附ニ加フルコトヲ得

海軍省  
軍令部  
海軍航空本部  
海軍施設本部

第六條 航空戦力査閲ノ成績ハ左ノ各號ニ依リ審査綜合シ其ノ狀況ノ難易ヲ考慮シテ之ヲ定ムルモノトス

- 一 計畫ノ適否
- 二 實施ノ適否
- 三 指揮ノ適否
- 四 軍紀ノ張弛及士氣ノ振否
- 五 關係員ノ練度
- 六 飛行機及同關聯器材整備ノ適否
- 七 軍需品ノ保全蓄積ノ適否
- 八 航空關係諸施設整備ノ適否
- 九 其ノ他必要ト認ムル事項

海軍公報 第四九三一號 昭和二十年二月十四日

一五一

1793

第七條 航空戦力査閲ニ關スル報告(通報)ハ左表ニ依リ之ヲ處理スルモノトス

提出(送付)書類	提出(送付)先	提出(送付)日	提出(送付)回数
航空戦力査閲官タル司令官又ハ司令官	海軍大臣 横須賀海軍航空隊司令官及關係各學校長	一月前	各一
基本長	所屬長官(所屬航空本部長ニ送付) 横須賀海軍航空隊司令官及關係各學校長	實施後十日以内	各一
司令官	各種指定教練作業成績表	實施後十五日以内	各一
航空戦力査閲官タル司令官又ハ司令官	一 實施計畫及經過ノ概要 二 綜合戰力表 三 訓練及戰備 四 實施ノ成果及意見(各部隊司令官及關係各學校長 ニ提出ノモノヲ含ム)	實施後成ルベク速ニ	各一

備考 報告(通報)様式ハ適宜トス

第八條 本令ニ定ムルモノノ外航空戦力査閲ニ關シ必要ナル事項ハ航空戦力査閲官タル司令官又ハ司令官ノ定ムル所ニ依ル

内令第一〇七號

海防艦 志賀

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル 第三百二十四號海防艦

佐世保鎮守府在籍

第三百二十四號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

海軍大臣

○ 通 牒

教育機密第五二號

昭和二十年二月二日

海軍省教育局長  
海軍省人事局長

各鎮守府參謀長  
各警備府參謀長  
海軍軍醫學校長 殿

豫備役海軍軍醫科士官ノ軍事學基礎講習ニ關スル件申進

昭和十九年九月二十日、同年十二月二十五日及昭和二十年一月十日附ヲ以テ豫備役海軍軍醫少尉ニ任用セラレタル者ニ對スル首題講習ハ左表ニ依リ實施ノコトニ定メラレ候

講習員	任用年月日	講習期間	講習場所	講習要領
内地 勤務者	昭和十九年 十二月二十 五日及昭和 二十年一月 十日	自 二月二十五日 至 三月二十六日	海軍軍醫 學校戸塚 分校	(一) 講習員ハ海軍軍醫 學校付トシ同校長ノ 定ムル所ニ依リ講習 ヲ實施ス (二) 講習期間ヲ約一月 トス (三) 昭和十九年九月二 十日任官ノ者ハ之ヲ 別表ノ通三回ニ分チ テ講習ヲ實施ス (四) 講習項目ハ見習尉 官同出身各科中少尉 實務練習規則第三條 第四項ニ準ズルモノ トシ海軍常識ノ涵養 並ニ海軍部内ノ氣風 ニ速ニ馴化セシムル ヲ主眼トシテ講習ヲ 實施ス
	昭和十九年 九月二十日	第 一回 自 四月一日 至 四月三十日 第 二回 自 五月十五日 至 六月十三日 第 三回 自 六月二十日 至 七月十九日		
外地 勤務者	各所屬長官ノ定ムル所ニ依リ右期間中前記要領ニ準ジ適宜實 施スルモノトス			
記事	一 別表ハ所要ノ向ニ之ヲ配付ス 二 海軍軍醫學校戸塚分校ニ於ケル講習修了セバ指導官ハ指 導計畫及實施經過ノ概要ニ所見ヲ附シ海軍大臣ニ報告スル モノトス			

海軍省 教育局長

海南警備府參謀長殿

海南警備府ニ於ケル特別志願兵ノ新兵基礎教  
育等ニ關スル件通牒

官房人機密第一九七三號關聯首題ノ件左記ノ通定メラレ候  
記

一 教育場所  
海南警備府司令長官所定ノ所在海軍部隊

二 教育期間並ニ教育實施要領  
教育期間 約六月  
教育實施要領  
(ロ)(イ) 本教育ハ新兵教育終了後ノ配員豫定(水兵ハ主トシテ陸戰  
防空要員ニ工作兵ハ主トシテ築城施設工作要員ニ充ツ)ヲ  
考慮シ陸上要員トシテノ教育ヲ重點的ニ實施スルモノトス

(ハ) 工作兵專修別  
工作兵ノ專修員別ハ入籍前ノ素養ヲ參酌シ土工員、隧道員、  
木工員及架構員等トシ其ノ比率ヲ夫々九、三、二、一トナ  
ル如ク定ムルモノトシ測量員ハ素養ヲ有スル者アル場合ニ  
シテ教育實施可能ナルトキニ限り十五名以内ニ對シ教育ヲ  
實施スルモノトス

(ニ) 教程標準  
別表第一但シ工作兵ニ對スル工作術教程標準別表第二  
(別表添)

教育機密第六四號  
昭和二十年二月九日  
秘海軍公報 第四九三二號 昭和二十年二月十四日



○ 雜 款

○司令水潛艦變更

第六潜水隊司令ハ二月八日司令潜水艦ヲ呂號第五十九潜水艦ニ變更セリ

○所屬變更

第四艦隊飛行機隊ハ昭和十九年十一月十五日附東カロン海軍航空隊ニ編入セラレタリ

(舊第四艦隊飛行機隊)

○正誤

一月二十二日秘海軍公報官房人第三十五號中「第三條ノ三」ハ「第三條ノ二」ノ、第十九條中「五月」ハ「三月」ノ執モ誤

○本日海軍公報發行セズ



(教育機密第六四號別表第二)

海南警備府特別志願兵(工作兵)工作術教程標準

(昭和二十年三月十四日祕海軍公報)

測量員	架構員	木工員	隧道員	土工員	全員	專修員別															
						科目	授時數														
土積、面積計算法	略測量法	測量機器具ノ構造並取扱法	「シーヤス」、絞轆、起重機組立法	重量物取扱、梱包法	足場架法、木造結構組立法	橋梁架設	組立家屋、W工法、屋根工法	建築施工法	石工法	隧道卷立法概要	隧道掘鑿法	輾壓及鋪裝工法、同修理法	道路及軌道工法	「コンクリート」「モルタル」ヲ以テスル造成施工法	土木施工法	荷役法	一般土工法	築城施設概要	科目別	授時數	本教程標準ノ外施設關係軍人教育實施規程ニ準據スルモノトス
二〇	九〇	一〇	二〇	一〇	四〇	一〇	二〇	二〇	二〇	一〇	八〇	二〇	二〇	一〇	七〇	一〇	二〇	一〇	二〇	四〇	

秘

海軍公報 第四九三二號

昭和二十年二月十五日(木)

海軍大臣

運送艦ノ部中「開宮」ヲ削ル

(内令提要卷三、四二頁参照)

内令第一〇八號  
艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十日

海軍大臣

主計長

給與主任

調査

驅逐艦、一等夕雲型ノ項中「清霜」ヲ、同松型ノ項中「桃、桑」ヲ、同二等若竹型ノ項中「吳竹、」ヲ削ル  
海防艦、第二號型ノ項中「第二十八號」ヲ、第五十四號「第六十四號」ヲ削ル  
輸送艦、一等第一號型ノ項中「第八號」ヲ、第十二號「同二等第一號型」ノ項中「第百四號、第百六號」ヲ、第百三十一號「第百四十九號」ヲ、第百五十九號「ヲ削ル  
水雷艇、千鳥型ノ項中「千鳥」ヲ削ル

(内令提要卷三、三三頁参照)

内令第一〇九號  
特務艦類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十日

海軍大臣

秘海軍公報 第四九三二號 昭和二十年二月十五日

20.2 23 接 受

1799

第二十一驅逐隊ノ項中「時雨」ノ下ニ「朝霜」ヲ加フ  
 第四十三驅逐隊ノ項中「桃」ヲ削ル  
 第五十二驅逐隊ノ項中「桑」ヲ削ル

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第一一二號  
 潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年二月十日

海軍大臣

第三十四潜水隊ノ項中「呂號第五十五」ノ下ニ「呂號第五十六」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第一一三號  
 輸送隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年二月十日

海軍大臣

第二輸送隊ノ項中「第八號」及「第百六號」ヲ削ル

(内令提要卷一、七四頁参照)

内令第一一四號

横須賀鎮守府豫備艦

軍艦長門

右警備艦ト定メラル

佐世保鎮守府豫備艦  
 軍艦 榛名

舞鶴鎮守府警備水雷艇

水雷艇 千鳥

右役務ヲ解カル

昭和二十年二月十日

海軍大臣

内令第一一五號

横須賀鎮守府在籍

驅逐艦 清霜

吳鎮守府在籍

驅逐艦 桑竹

驅逐艦 吳竹

舞鶴鎮守府在籍

驅逐艦 桃

右帝國驅逐艦籍ヨリ除カル

佐世保鎮守府在籍

第五十四號海防艦

第六十四號海防艦

舞鶴鎮守府在籍

第二十八號海防艦

右帝國海防艦籍ヨリ除カル

<p>内令第一一六號</p> <p>横須賀鎮守府在籍</p> <p>第百五十一號驅潛特務艦</p>	<p>右帝國特務艦籍ヨリ除カル</p> <p>昭和二十年二月十日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>横須賀鎮守府在籍</p> <p>第八號輸送艦</p> <p>第百六號輸送艦</p> <p>吳鎮守府在籍</p> <p>第百四號輸送艦</p> <p>第百四十九號輸送艦</p> <p>第百五十九號輸送艦</p> <p>佐世保鎮守府在籍</p> <p>第十二號輸送艦</p> <p>第百三十一號輸送艦</p> <p>舞鶴鎮守府在籍</p> <p>水雷艇 千鳥</p> <p>吳鎮守府在籍</p> <p>特務艦 間宮</p>
<p>内令第一一七號</p> <p>昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス</p> <p>昭和二十年二月十日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>右本籍ヲ高雄警備府ニ改ム</p> <p>昭和二十年二月十日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>吳鎮守府在籍</p> <p>第百七十七號驅潛特務艦</p> <p>大湊警備府在籍</p> <p>第百九十二號驅潛特務艦</p> <p>横須賀防備隊ノ項驅潛特務艦ノ欄「第百五十一號(横)」及「第百六十三號(横)」ヲ削ル</p> <p>佐伯防備隊ノ項驅潛特務艦ノ欄「第百七十六號(吳)、第百七十七號(吳)」ヲ削ル</p> <p>大湊防備隊ノ項驅潛特務艦ノ欄「第百九十二號(大)」ヲ削ル</p> <p>鎮海防備隊ノ項驅潛特務艦ノ欄「第七十六號(鎮)」ヲ削ル</p> <p>南東方面艦隊ノ項魚雷艇ノ欄「第四百十八號(佐)、第四百二十號(佐)」ヲ削ル</p> <p>第一南遣艦隊ノ項魚雷艇ノ欄「第四百七號(佐)」及「第四百五十二號(佐)」ヲ削ル</p> <p>馬公方面特別根據地隊ノ項驅潛特務艦ノ欄「第九十五號(高)」</p>

秘海軍公報 第四九三二號 昭和二十年二月十五日

一五七

ヲ削ル  
高雄海軍警備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第百五十二號(高)」ノ前ニ「第百五十一號(高)」ヲ、「第百五十六號(高)」ノ次ニ「第百七十七號(高)」ヲ、「第百九十一號(高)」ノ次ニ「第百九十二號(高)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第一一八號

昭和十九年内令第四三九號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十日

海 軍 大 臣

第三十一魚雷艇隊ノ項中「509」、「513」、「517 519」及「526」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二七頁参照)

内令第一一九號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ鎮海警備府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ高雄警備府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

第四百七號魚雷艇  
第四百十八號魚雷艇  
第四百二十號魚雷艇  
第四百五十二號魚雷艇  
第五百九號魚雷艇  
第五百十三號魚雷艇  
第五百十七號魚雷艇  
第五百十九號魚雷艇  
第五百二十六號魚雷艇

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第一一八號

昭和十九年内令第四三九號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十日

海 軍 大 臣

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

(内令提要卷三、四八ノ二七頁参照)

内令第一一九號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ鎮海警備府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ高雄警備府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

昭和二十年二月十一日

海軍大臣

記

第二美保海軍航空隊	大和海軍航空隊
第二美保海軍航空隊峯山分遣隊	姫路海軍航空隊峯山分遣隊
名古屋海軍航空隊岡崎分遣隊	第三岡崎海軍航空隊
大村海軍航空隊濟州島分遣隊	釜山海軍航空隊

官房軍機密第一四三號

連山委員會規程左ノ通定ム

昭和二十年二月十三日

海軍大臣

連山委員會規程

第一條 試製連山改(鋼製)ノ急速整備ヲ期シ之ガ研究調査及綜合計畫ヲ行ヒ其ノ實現ノ促進ニ任ズル爲連山委員會(以下單ニ委員會ト稱ス)ヲ置ク

第二條 委員會ニ左ノ分科會ヲ置ク分科會ノ組織ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

- 一 第一分科會(設計ニ關スル事項)
  - 二 第二分科會(製造ニ關スル事項)
  - 三 第三分科會(材料ニ關スル事項)
- 第三條 委員會ニ委員長、委員長輔佐、分科會長、委員及幹事ヲ置ク其ノ組織別表ノ如シ

秘海軍公報 第四九三二號 昭和二十年二月十五日

部外ノ委員及幹事ハ海軍大臣之ヲ依囑ス

第四條 委員長ハ會務ヲ總理ス

第五條 委員長輔佐ハ委員長ヲ輔佐ス

第六條 分科會長及委員ハ議案ヲ審議ス

第七條 幹事ハ委員會及分科會ニ關スル庶務ヲ整理シ各分科會ノ連絡ニ任ズ

第八條 委員長ハ審議上必要アルトキハ委員以外ノモノヲシテ

議事ニ參與セシムルコトヲ得

第九條 委員長ハ必要ニ應ジ官廳、民間會社其ノ他ノ者ニ研究

調査ノ一部ヲ依囑スルコトヲ得

第十條 本規程ニ定ムルモノヲ除ク外連山委員會ニ關シ心要ナル事項ハ委員長ノ定ムル所ニ依ル

(別表添)

○ 通 牒

教育機密第六八號

昭和二十年二月十三日

海軍省教育局長  
海軍省人事局長

各鎮守府參謀長  
各警備府參謀長  
各艦隊司令官  
各戰隊司令官  
各水雷隊司令官  
各訓練隊司令官  
對潛係各所轄隊長

殿

一五九



一般兵科豫備生徒出身海軍少尉候補生實務練習ニ關スル件申進

來二月二十日其ノ教育ヲ終了シ採用豫定ノ海軍少尉候補生及昨年十二月二十五日其ノ教育ヲ終了シ採用ノ上官房教機密第二三號(一月十七日秘海軍公報參照)ニ依リ目下横通校ニ於テ艦船乘組通信士トシテ所要ノ通信術講習中ノ海軍少尉候補生ニ對スル實務練習ハ昨年達第一號實務練習規則ニ基キ左記ニ依リ實施セラルル豫定ニ有之候條了知相成度

記

番號	出身別	種別	員數	實務練習實施部隊等	期間	記
一	電測校	電測班	約三名	根據地隊、警備隊等ノ一部ノ艦船	自二月三日至三月三日	對シテハ海上勤務及乗組電測士ノ配置ニ付修得セシム
二	航校	航海班	約四名	軍艦及海上部隊司令部	自三月一日至五月一日	於ケル通信術講習ハ終了後二日間中海上勤務練習及艦船乗組通信士ノ配置ニ付修得セシム

(參照) 一九、一二、一七秘海軍公報教育機密第四二六號ノ二

教育機密第六九號

昭和二十年二月十三日

海軍省教育局長  
海軍省人事局長

各鎮守府參謀長  
各警備隊參謀長  
各艦隊司令官  
各水雷隊司令官  
各第二十二戰隊司令官  
對潛訓練隊司令官  
關係各所轄長

一般兵科豫備學生出身海軍少尉實務練習ニ關スル件申進

昨年十二月二十五日其ノ教育ヲ終了シ海軍少尉ニ任用ノ上官房教機密第二三號(一月十七日秘海軍公報參照)ニ依リ目下横通校ニ於テ艦船乘組通信士トシテ所要ノ通信術講習實施中ノ首題海軍少尉ノ將來海上勤務ニ對スル實務練習ハ昨年達第一七號實務練習規則ニ基キ左記ニ依リ實施セラルル豫定ニ有之候條了知相成度

記

出身別	種別	員數	實務練習實施部隊等	期間	記
航校	航海班	約六一名	軍艦及海上部隊司令部	自三月一日至四月三日	横通校ニ於ケル通信術講習ハ終了後二日間中海上勤務練習及艦船乗組通信士ノ配置ニ付修得セシム

(官房軍機密第一四三號別表)

(昭和二十年二月十五日祕海軍公報)

備考 一 ○印ハ幹事ヲ示ス 二 本表ノ外必要ニ應ジ適宜委員ヲ命ズルコトアルベシ	委員長	連山委員	會組織	委員
	委員長輔佐	會組織	會長	員
	海軍艦政本部長	海軍艦政本部 技術監 海軍艦政本部出仕 高座海軍工廠長	第一分科會長 海軍航空本部第二部長 第二分科會長 海軍艦政本部第四部長 第三分科會長 海軍艦政本部出仕	○海軍省軍務局第一課長 ○海軍省軍務局局長 ○海軍省兵備局第二課長 ○海軍省兵備局局長 ○海軍施設本部總務部第一課長 ○海軍艦政本部總務部第一課長 ○海軍艦政本部部員(内二名) 海軍艦政本部出仕 ○海軍航空本部總務部第一課長 ○海軍航空本部總務部第二課長 ○海軍航空本部第二部第一課長 ○海軍航空本部第二部第二課長 ○海軍航空本部部員(内一名) 軍令部第三課長 軍令部部員 ○海軍航空技術廠部員(企畫科長) 海軍航空技術廠部員 橫須賀海軍航空隊附(審査部長) 橫須賀海軍航空隊附(審査部部員) ○軍需省航空兵器總局總務局總務課長 ○軍需省航空兵器總局總務局技術課長 ○軍需省航空兵器總局第一局飛行機課長 ○軍需省航空兵器總局第三局鐵鋼課長 軍需省航空兵器總局職員
				三 一 二七 一 三 二 一 四 四 四 二 一 三 四
			四	

(参照) 一九、二二、一七 秘海軍公報教育機密第四二六號

○感 狀

感 狀

大村海軍航空隊

昭和十九年十一月二十二日在支米空軍西九州方面來襲ニ方リ各員一致團結之方邀撃ニ任ジ其ノ戰鬪機隊ハ狀況困難ナリシニモ拘ラズ敵機ヲ要地侵入前ニ捕捉シ終始果敢熾烈ナル攻撃ヲ加ヘ小兵力ヲ以テ克ク其ノ三機ヲ撃墜五機ヲ撃破シ友軍戰鬪機隊ト協同敵ノ企圖ヲ破摧セルハ武功顯著ナリト認ム  
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十九年十二月十五日

佐世保鎮守府司令長官 杉山 六藏

感 狀

特設監視艇 ふさ丸

昭和十九年十一月十七日南哨戒線ニ進撃ノ途次八丈島南方海面ニ於テ敵潜水艦二隻ト交戦船體兵器ニ甚大ナル損傷ヲ受ケ死傷者續出セルモ數次ニ互リ敵ニ近迫猛撃ヲ加ヘ且好機ニ投ジ隱密爆雷攻撃ヲ實施シ其ノ一隻ヲ撃沈シ他ノ一隻ヲ撃破遁走セシメタルハ其ノ武功顯著ナリト認ム  
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十九年十二月十九日

聯合艦隊司令長官 豊田 副武

感 狀

呂號第四十一潜水艦

昭和十九年九月中旬「パラオ」諸島及「モロタイ」島ニ來襲セル敵攻略部隊邀撃作戰ニ任ジ十月三日「モロタイ」島東方海面ニ於テ勇戰敢鬪敵航空母艦一隻ヲ撃沈一隻ヲ撃破シタルハ其ノ武功顯著ナリト認ム  
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十九年十二月十九日

聯合艦隊司令長官 豊田 副武

感 狀

呂號第五十潜水艦

昭和十九年十一月下旬以降非島東方海面ニ於テ作戰中十一月二十五日敵機動部隊ニ肉薄攻撃ヲ敢行シ驅逐艦一隻ヲ撃沈大型航空母艦一隻撃沈又ハ撃破シタルハ其ノ武功顯著ナリト認ム  
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十九年十二月十九日

聯合艦隊司令長官 豊田 副武

感 狀

伊號第四十一潜水艦

昭和十九年十月下旬以降非島東方海面ニ於テ作戰中十一月三日敵機動部隊ニ肉薄攻撃ヲ敢行シ「エセツクス」型航空母艦一隻ヲ撃沈シタルハ其ノ武功顯著ナリト認ム

秘海軍公報 第四九三二號

昭和二十年二月十五日

仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十九年十二月十九日

聯合艦隊司令長官 豊田 副武

○雜 款

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始月日	電 話	記 事
第一海軍被糧廠札 院出張所	北海道札幌市北二條西 二〇丁目	一月五日		
聯運艦推艦裝具事 務所	舞鶴海軍工廠内	二月一日		
高松地方海軍人事 部	松山市出淵町一丁目	二月二日	松山 一五八番	
第三二海軍航空 隊	鳴尾航空基地	二月五日		三月五日 移轉ス
○事務所撤去				
第五十九號海防艦艦裝具事務所		二月二日		
波號第百三潜水艦艦裝具事務所		二月三日		
波號第百七號潜水艦艦裝具事務所		二月七日		
○轉勤者赴任先				
第二五二海軍航空隊並ニ所屬飛行隊ヘノ轉勤者ハ左記ニ赴任セ シメラレ度				

記

第二五二海軍航空隊  
戰團第三〇八飛行隊

千葉縣長生郡茂原航空基地

戰團第三〇四飛行隊  
戰團第三一六飛行隊

千葉縣館山市第二五二海軍航空隊備山派  
遣隊  
(第二五二海軍航空隊)

○訂正

二月五日附秘海軍公報合同海軍葬儀執行期日盛岡地方海軍人事  
部ノ部二月二十日ヲ同月二十四日ニ訂正

○正誤

二月四日附秘海軍公報第四九三二號道標欄一一九頁經給第二八  
號第二號第二項中「第三條」ハ「第二條」ノ、同第三號(ハ)第二  
項中「作業能率優秀者」ハ「作業能率優秀者等」ノ、同第二號  
様式注意書中「筆記スルコト」ハ「略記スルコト」ノ孰モ誤

秘

海軍公報 第四九三三號

〇令 達

達第二六號  
海軍身分證明書規程ノ通定ム

昭和二十年二月十日

海軍大臣 臣

海軍身分證明書規程

第一條 海軍發行ノ身分證明書(以下身分證ト稱ス)ヲ分チテ  
海軍身分證明書及海軍構内限身分證明書トス

第二條 身分證ノ發行廳左ノ如シ

一 海軍省、鎮守府、警備府

二 各廳(艦船部隊名ヲ公表シ得ザル艦船部隊ヲ除ク)

第三條 身分證ノ交付ヲ受クル資格アル者(以下被交付者ト稱  
ス)左ノ如シ但シ外國人ヲ除ク

一 軍人(現役及應召中ノ准士官以上以下同ジ)

二 文官

三 雇員、傭人、工員、鑛員(假採用者ヲ含ム)

四 徵用員

五 徵備船船員

六 囑託者(兼務囑託者ヲ含ム)

七 構内官舎ニ居住シ又ハ構内ニ於テ常時勤務スル部外者

第四條 海軍身分證明書ハ部内各部ニ通用スルノ外、部外ニ於ケ  
ル非常線通行用身分證明書トシテ通用ス

第五條 海軍身分證明書ノ發行區分及様式ハ別表第一及別圖第  
一ノ如シ

第六條 海軍身分證明書表面中央ニ左ノ區分ニ依リ櫻花ヲ附ス

- 一 高等官同待遇者 桃色
- 二 判任官一等 水色
- 三 判任官(判任官一等ヲ除ク)同待遇者 黄色
- 四 其ノ他ノ者 櫻花ヲ附セズ

第七條 海軍身分證明書ハ毎年十二月當該發行廳長之ヲ檢査シ  
別圖第三様式ニ依ル檢査ノ證ヲ海軍身分證明書ノ表面右下隅  
餘白ニ捺印スルモノトス但シ被交付者所屬廳ニシテ當該發行  
廳ト隔在シ檢印ヲ受タルコト能ハザル場合ハ在京ノモノニ在  
リテハ海軍省、其ノ他ノモノニ在リテハ最寄ノ鎮守府又ハ警  
備府ニ於テ之ヲ實施スルモノトス

第八條 海軍構内限身分證明書ハ甲、乙ノ二種トシ當該發行廳  
ノ在ル構内限リ通用ス但シ同一構内ニ多數ノ廳在ル場合等ニ  
在リテハ當該構内ノ最先任ノ廳長ノ定ムル所ニ依リ其ノ通用

海軍公報 第四九三三號 昭和二十年二月十六日

一六三

昭和二十年二月十六日(金)

海軍大臣 官房 20.2.23 受

1808

範圍ヲ適宜限定スルコトヲ得

第九條 海軍構内限身分證明書ノ發行區分及様式ハ別表第二及別圖第二ノ如シ

第十條 身分證明書ノ發行廳ハ別表第三様式ニ依リ海軍身分證明書及海軍構内限身分證明書發行原簿ヲ各證明書別ニ備フルモノトス

各廳長ハ部下高等官ヲシテ身分證明書ノ取扱ニ任ゼシムルモノトス

第十一條 身分證明書發行廳ニ對シ身分證明書ノ發行ヲ求ムル場合ハ寫眞ヲ添附シ別表第三様式ニ依リ之ヲ請求スルモノトス

第十二條 身分證明書ト之ヲ發行原簿トニハ發行廳ニ於テ契印ヲ押捺スルモノトス

第十三條 身分證明書ヲ亡失シタル者アル場合ニハ被交付者所屬廳ハ速ニ別表第四様式ニ依リ當該發行廳及海軍構内門ヲ管理スル關係廳長ニ之ヲ通知スルモノトス

亡失身分證明書ヲ發見シタルトキハ前項ノ規定ニ準ジ其ノ旨被交付者所屬廳及當該發行廳ニ通知スルモノトス

第十四條 身分證明書有スル者其ノ資格ヲ失ヒ又ハ他廳ニ轉出等ノ爲不用ト爲リタル場合ニハ身分證明書ハ當該發行廳ニ之ヲ還納スベシ但シ軍人進級又ハ他廳ニ轉出ノ場合ハ海軍身分證明書ノ身分又ハ勤務廳ノ記事ヲ當該發行廳又ハ轉出先勤務廳ニ於テ訂正ノ上明細キ之ヲ使用スルコトヲ得

第十五條 身分證明書用紙ハ海軍大臣官房ニ於テ之ヲ準備シ所要數ヲ領守府及警備府ニ配付ス

第十六條 被交付者ニシテ勤務時間外ニ防空警報發令アリタル場合ニ於ケル非常參集者タルモノニ在リテハ其ノ海軍身分證明書ノ表面左上隅餘白ニ赤色(防)ノ印ヲ押捺スルモノトス

附則

本達ハ昭和二十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

従前ノ規定ニ依リ交付シタル身分證明書ハ別圖第三ノ檢印ヲ受ケタルモノニ限り本規定ニ依ル身分證明書ノ交付迄引續キ之ヲ使用セシムルコトヲ得

(別紙添)

(内令提要卷二、三五〇頁)  
(參照) 昭和十六年官房機密第一一五七六號及同第一一五七六號ノ二ハ自然消滅トス

官房軍第六六號

舊第一三一號輸送艦及舊第一四九號輸送艦ヲ雜役船ニ編入シ船名、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和二十年二月十日

海軍大臣

船名	船種	所屬	定數別	記	事
第一黑潮	交通船	佐世保海軍港務部	臨時附屬	舊第一三一號輸送艦	
第二黑潮	同	(第一南道艦隊司令部供用)		舊第一四九號輸送艦	

官房人機密第九一號

橫須賀領守府司令長官ハ左ノ各號ニ依リ測量術又ハ氣象術豫備

練習生ヲ採用スベシ

昭和二十年二月十四日

海軍大臣

一 採用範圍

水路部修技所専科又ハ海軍氣象部専科ヲ卒業シタル者(本年三月末日迄ニ卒業ノ者ヲ含ム)

二 出願期限

昭和二十年三月十五日

三 身體検査及口頭試問ノ時期及場所

(イ) 時期

昭和二十年四月上旬

(ロ) 場所

水路部

四 採用時期及採用員數

特修別	時期	員數
測量術	昭和二十年四月上旬	約六〇名
氣象術	同	約九五名

五 入團時期及場所

特修別	時期	場所
測量術	昭和二十年四月上旬	横須賀海兵團
氣象術	同	同

六 召集

横須賀海兵團ニ於ケル海軍豫備練習生教程修了ノ上海軍一等兵曹ニ任用即日全員召集原所轄ニ配屬セシム

官房人機密第九二號

昭和二十年二月十四日

海軍大臣

各鎮守府司令長官殿

水兵科又ハ機關科豫備練習生採用ノ件告達

海軍豫備練習生規則第二條第二項及同則附則第四項ニ依リ本年度採用スベキ水兵科又ハ機關科豫備練習生ノ兵種別員數其ノ他左記ノ通定ム

一 採用員數

約四〇〇名(横)	約六二〇名(横)
約四五〇名(吳)	約七〇〇名(吳)
約一二〇名(佐)	約二四〇名(佐)
約五〇名(舞)	約一〇〇名(舞)
約二二〇名(横)	
約二五〇名(吳)	
約一二〇名(佐)	
約五〇名(舞)	
計	
	約一〇〇〇名(舞)

二 教育開始時期  
昭和二十年十二月上旬

○ 通 牒

官房軍第六八號

昭和二十年二月十日

海 軍 省 副 官

關係各廳長 殿

海軍構門及各廳構門通行取締ニ關スル件通牒

首題ノ件左記ノ通定メラレ昭昭和二十年三月一日ヨリ施行セシメ  
ラレ候

追テ昭和十八年官房軍機密第四一五號及昭和十九年官房機密  
第三二六號ハ自然消滅ノ義ト了知相成度

記

海軍構門及各廳構門通行取締ハ左ノ各號ニ依ル

一 軍人(現役又ハ應召中ノモノニ限ル)、文官、雇員、傭人、  
工員、傭員、徵用員、徵備船舶船員及專務囑託者

(イ) 海軍身分證明書又ハ海軍構門限身分證明書ヲ提示ス但シ  
勅令ヲ以テ定メラレタル制服ヲ著用スル者其ノ他制服ヲ著  
用スル守衛長及守衛ニ在リテハ特ニ之ガ提示ヲ求メラレタ  
ル場合ノ外提示スルヲ要セズ

(ロ) 必要ト認ムル場合ハ所轄、官、氏名、用件等ヲ飢ネシム  
ルコトアリ

(ハ) 必要ト認ムル場合ハ所持品ノ點檢ヲ行ハシムルコトアリ  
但シ准士官以上、高等文官及判任官一等同待遇者ニ付テハ  
此ノ限ニ在ラズ

(ニ) 自動車ニテ構門ヲ出入スル場合ニハ一旦停止スルモノト  
シ前各號ノ規定ヲ適用ス但シ晝間(日出時ヨリ日没時迄)  
制服着用ノ准士官以上、高等文官及判任官一等同待遇者乘  
用ノ部内自動車ハ特ニ停止セシメラルモノヲ除クノ外徐  
行スルモノトシ海軍身分證明書ノ提示ヲ行ハザルコトヲ得

二 軍屬船員  
軍屬船員身上取扱要領細則ニ依ル軍屬船員證ヲ提示スルノ外  
前號ニ同シ

三 構内常時勤務者又ハ構内官舎居住ノ部外者、假採用者及兼  
務囑託者  
海軍構門限身分證明書ヲ提示スルノ外第一號ニ同シ

四 右以外ノ者  
東京ニ在リテハ海軍大臣、其ノ他ノ地ニ在リテハ當該鎮守府  
又ハ警備府司令長官ノ定ムル所ニ依ル

(内令提要卷二、三五〇頁参照)

軍務一機密第一一六號

昭和二十年二月十四日

海軍省軍務局長

海軍省軍需局長

海軍省醫務局長

各鎮守府參謀長

各警備府參謀長

各航空隊參謀長

各海軍練習艦隊參謀長

海軍省參謀長

海軍省參謀長

海軍省參謀長

海軍省參謀長

海軍省參謀長

海軍省參謀長

海軍省參謀長

海軍省參謀長

海軍省參謀長

海軍省參謀長

海軍省參謀長

海軍省參謀長

海軍省參謀長

海軍省參謀長

海軍省參謀長

海軍省參謀長

海軍省參謀長



保健對策強化ニ關スル件申進

最近部内ニ於テ衣糧事情ノ困難、防寒施設ノ不備、兵員ノ体位低下等ニ起因シ体重一般ニ減少ノ傾向ヲ示シ特ニ酷暑期ニ入り全身衰弱ニ因ル死亡者ノ發生ヲ見ツツアル實情ニ鑑ミ之ガ根本對策ニ關シテハ目下研究中ナルモ差當リ至急左記對策ヲ講ゼンメラレ度

記

一 榮養補給對策

糧食規定量ノ確保

配食ノ適正化

調理獻立ノ合理化

溫食ノ勵行

非常勞働食制ノ活用

咀嚼ヲ十分ナラシムルコト(二十分間)

二 保溫對策

兵員居住區ノ實情調査

賊風發生ノ起因タルベキ隙間ノ閉塞

私品下着類ノ着用許可

毛布ノ重點的適正貸與並ニ藁蒲團ノ使用勵行

就寢直前海軍体操ノ實施

酷暑期ノ夜間空襲時ニ於ケル待避時ノ保溫

三 訓練ト養護ト調節

訓練ト休養トノ合理化ヲ圖リ過勞ニ陥ラシメザルコト

常ニ兵員ノ健康状態ニ親身ノ注意ヲ拂ヒ望診所見体重ノ

推移等ヲ重視スルコト

(ハ) 体位劣格者ニ對スル教育訓練ヲ特ニ重視シ漸進的ナラシムルト共ニ酷暑期ニ於ケル耐寒訓練ノ適正ヲ圖ルコト  
(ニ) 体重著シク減少シ体力低下セリト認メラルル者ニハ特ニ養護ヲ加フルコト

艦本機密第一號ノ一四七三

昭和二十年一月三十一日

海軍艦政本部總務部長

横須賀、吳 海軍工廠長

佐世保、舞鶴 殿

横須賀、舞鶴 海軍軍需部長

佐世保、舞鶴

四十五口径十二糎高角砲一式通常彈藥包整備

竝ニ供給ニ關スル件照會

首題ノ件左記ニ依リ促進ノコトニ取計相成度

追テ本彈藥包ハ從來ノモノニ比シ遠達性ヲ増進シタルモノニ有之候

記

一 彈丸、藥莢、信管、火管等ノ組合

彈丸 十二糎高角砲一式通常彈

信管 四式時限信管三型

藥莢 十二糎高角砲藥莢

同 鐵藥莢二型又ハ三型

裝藥 二七DT8又ハ二七DT(追テ變更スルコトアルベ

シ)  
藥量ハ別途通牒ニ依ル

火管 英四號擊發火管(電氣火管)

二 整 備

炸填納入先

軍需部所在地ノ工廠

彈藥包調製

同 右

照準器目盛飯及射表

吳海軍工廠製造ノ上所要各軍需部ヘ納入ス但シ目盛

飯ハ狀況ニ依リ一時假製ノモノヲ代用スルコトヲ得

信管秒時測定具

別途注文ノモノヲ所要各軍需部ヘ納入セシム

供給準備完成時機

昭和二十年二月下旬ヲ目途トシ成ルベク速ニ

三 供 給

準備完成次第彈藥包、信管、火管、照準器目盛飯、信管秒時

測定具及射表ヲ一括シ逐次供給スルモノトシ供給先及供給數

量ハ別途訓令ニ依ル

○ 雜 款

○ 開隊

大和海軍航空隊ハ二月十一日奈良縣山邊郡朝和村ニ開隊セリ

追テ第二美保海軍航空隊ハ同日附解隊殘務整理ハ大和海軍航  
空隊内ニ於テ之ヲ行フ

○ 旅行順路

京都方面ヨリ

(イ) 省線奈良線、櫻井線ニテ京都ヨリ柳本驛下車(徒歩約一

里

(ロ) 奈良電鐵線ニテ京都ヨリ大和西大寺ニ至リ近畿日本鐵道

天理線ニ乗替ヘ天理驛下車(徒歩約一里)

大阪方面ヨリ

(イ) 省線關西本線ニテ天王寺ヨリ奈良ニ至リ櫻井線ニ乗替ヘ

柳本驛下車

(ロ) 近畿日本鐵道奈良線ニテ上本町ヨリ大和西大寺驛ニ至リ

同電鐵天理線ニ乗替天理驛下車

名古屋方面ヨリ

省線關西本線ニテ龜山ヨリ奈良ニ至リ櫻井線ニ乗替ヘ柳本驛

下車

旅費支給上ノ起終點

省線櫻井線柳本驛

(大和海軍航空隊)

○ 本日海軍公報發行セズ

(達第二六號別表第一)

所屬 廳 ナ キ モ ノ	他廳ノ出張所等		應ニ準ズ ベキモノ		學 校	艦隊		官 衙	被 交 付 者 所 屬 廳
	其 ノ 他	在京ノモノ	應印ヲ有スルモノ	在京ノモノ		艦船部隊名公表シ得ザルノモノ	艦船部隊名公表シ得ザルノモノ		
軍人及文官						所屬廳ニ於テ常時勤務シ又ハ主トシテ服務シアル軍人、文官、雇員、工員、鑛員、徴用員、徴備艦船船員及専務囑託者		被 交 付 者	
准特務士官	文官	豫備士官	士官	士官	當該廳	領守府又ハ警備府但シ徴備艦船船員ニ對シテハ所管領守府ノ海軍艦船部又ハ海軍運輸部トス		發 行 廳	
所屬ノ海軍人事部	海軍省人事局		領守府又ハ警備府		海軍省	領守府又ハ警備府			
	領守府又ハ警備府		海軍省		海軍省	領守府又ハ警備府			

(昭和二十年二月十六日海軍公報)

(達第二六號別表第二)

身分證明書		海軍構内限		身分證明書	
乙種		甲種		身分證明書	
二		一		有効期限	
月		年		有効期限	
假採用者		別表第一ニ依ル海軍身分證明書ノ被交付有資格者ニシテ交付手續中ノモノ		被交付者範圍	
		構内ニ於テ當時勤務シアル部外者		被交付者範圍	
		兼務嘱託者		被交付者範圍	
		構内ノ官舎ニ居住シアルモノ		被交付者範圍	
		當該構内ノ最先任廳長		發行廳	
		別表第一ニ依リ被交付者所屬廳及發行廳ノ區分ニ準ズ		發行廳	

(昭和二十年二月十六日海軍公報)

(達第二六號別表第三)

海軍身分證明書  
(海軍構内限身分證明書) 發行原簿

(昭和二十年二月十六日陸海軍公報)

證明書 番 號	交付年月日		本 籍 地	所 屬 廳	身 分 (資 格)	氏 名 (生 年 月 日)
	選 納 (亡 失) 年 月 日	現 住 所				

(註) 一 官舎居住者、兼務囑託者、構内當時勤務ノ部外者及假採用者ニ在リテハ身分(資格)欄ニ其ノ旨明記スルモノト

ス  
二 第十一條ノ規定ニ依リ所屬廳以外ノ發行廳ニ身分證ヲ求ムル場合ハ所屬廳ニ於テ身分證明紙ニ便宜上所要事項ヲ記載シ添付スルモノトス

1816

(達第二六號別表第四)  
件名番號

昭和 年 月 日

當該身分證發行廳宛  
(關係廳長)

身分證亡失(發見)ノ件通知

廳

名

(昭和二十年二月十六日祕海軍公報)

記 事	届出年月日及場所	亡失(發見)年月日及場所	身 分 氏 名	身分證類別及發行年月日	身分證番號及發行廳名

1817

(達第二六號別圖第二)

海軍身分證明書様式

(表面)

(裏面)

注意

- 一 本證ハ海軍構門又ハ各艦構門出入ノ都度之ヲ提示スルモノトス但シ制服着用ノ時任官以上ハ提示ヲ求メラレタル場合ノ外之ヲ要セズ
- 二 本證ハ姓名以外使用スベカラズ
- 三 肥前事項ニ變更アリタル場合ハ直ニ訂正ヲ受クルヲ要ス
- 四 訂正個所ニ發行處ノ消印ナキモノハ無効トス
- 五 發行年ニ於ケル檢印ナキモノハ其ノ翌年一月一日以降無効トス
- 六 本證ヲ亡失シタルトキハ直ニ救済務署又ハ憲兵分隊ニ届出ツルト共ニ發行處ニ其ノ旨報告スベシ
- 七 返却スベシノ際又ハ所有資格ヲ失ヒタルトキハ直ニ發行處ニ本證ハ部外ニ於ケル非常線通行用トシテ通用ス

(昭和二十年二月十六日海軍公報)

(註)

- 一 地色ハ白、斜線ハ赤色一線(幅一糎)トス
- 二 高等官同待遇者及判任官同待遇者用ニハ表面中央ニ櫻花ヲ附ス
- 三 艦船部隊名ヲ公表シ得ザル艦船部隊ニ勤務スル者ノ發行處名ハ「何領守府所屬部隊」等ト記註ス

(達第二六號別圖第一)

海軍構内限身分證明書様式

(表面)

發行艦名第 號		本艦名	
年 月	日交付	年 月	日生
昭和 年 月	日交付	年 月	日生
發行艦名		艦印	
身分氏名		現住所	
勤務處		本籍	

(裏面)

發行艦ノ印

注意

- 一 本艦ノ海軍構内又ハ各艦構内出入ノ程度之ヲ指示スルモノトシテ但シ制艦者用ノ列係官以上ハ指示ヲ求メラレタル場合ノ外之ヲ要セズ
- 二 本艦ノ艦名以外使用スベカラズ
- 三 本艦ノ項ニ總員アリタル場合ハ直ニ「直ニ」トシテ「直ニ」トス
- 四 訂正欄所ニ於ケル檢印ナキモノハ其ノ翌年一月一日以降無効トス
- 五 本艦ヲ亡失シタルトキハ直ニ「報告」トシテ「報告」トス
- 六 期限満了ノ際又ハ所有義務ヲ失ヒタルトキハ直ニ「發行艦」ニ「返却」スベシ

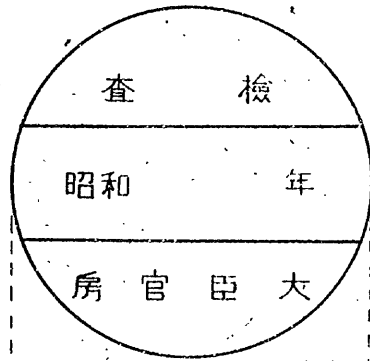
(昭和二十年二月十六日海軍公報)

(註)

- 一 表面「艦」ノ字ノ下括弧内ニ各區分ニ從ヒ青色又ハ紫色ノ「甲」又ハ「乙」ノ印ヲ附録スルモノトス
- 二 一構内限身分證明書ヲ有スル者ハシテ更ニ他ノ構内限身分證明書ノ交付ヲ要スルモノニ對シテハ當該艦ニ於テ便宜發行艦名ヲ列記捺印シ別交付ニ代フルコトヲ得



(達第二六號別圖第三)



(註) 檢印ノインキノ色別ヲ記テ奇數年ハ赤色、同偶數年ハ青色又ハ紫色トス

五厘

(昭和二十年二月十六日秘海軍公報)

1820

秘

# 海軍公報 第四九三四號

昭和二十年二月十七日

海軍大臣 官房

## ○ 令 達

内令兵第一號  
昭和十七年内令兵第六五號機銃用無煙火藥領收發射試驗規則中別紙ノ通改正ス

別紙ハ海軍艦政本部長ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム  
昭和二十年二月十六日

海軍大臣 臣

官房人第七六號

海軍武官増俸等取扱特例中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十五日

海軍大臣 臣

第一條第六號及第七號中「三級俸ニハ六月、」ヲ削ル

同第八號及第九號ヲ削リ第十號ヲ第八號トス

第一條ノ二 准士官又ハ下士官ニ任用進級シタル者ハ規則第一條及第二條ノ規定ニ拘ラス其ノ際准士官又ハ上等下士官ニ在

リテハ三級俸、一等下士官又ハ二等下士官ニ在リテハ一級俸ヲ給スルモノトス

第五條中「五月一日及十一月一日」ヲ「六月一日及十二月一日」ニ改ム

海軍公報 第四九三四號 昭和二十年二月十七日

## 第六條 削除

### 附則

本令ハ昭和二十年五月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際現ニ准士官若ハ上等下士官ノ四級俸又ハ一等下士官若ハ二等下士官ノ二級俸ニ在ル者ハ昭和二十年五月一日各其ノ上級ノ級俸ヲ給スルモノトス

(參照) 諸例則卷二、二〇二ノ三頁

官房經機密第一〇九號

昭和十九年官房經機密第一三四八號中左ノ通改正ス

昭和二十年二月十五日

海軍大臣 臣

秘密氣象圖誌及普通氣象圖誌會計官吏ノ欄中「※兵科士官タル氣象部員」ヲ「總務課長」ニ改ム

(參照) 機密會計法規類集四六〇ノ二

昭和十九年官房經機密第一三四八號ハ氣象圖誌ノ其備品出納命令官同會計官吏及同取扱主任ニ關スル件ナリ

官房教機密第八〇號

當分ノ間左ノ各號ニ依リ沼津海軍工作學校ニ於テ工作術臨時講習ヲ施行ス

海軍公報 第四九三四號 昭和二十年二月十七日

一六九

1821

海軍大臣

昭和二十年二月十六日

一 目的

沼津海軍工作學校築城施設關係職員タル特務士官(機、工)海軍機關兵曹長及海軍工作兵曹長ニ對シ築城施設關係工業ニ關スル識能ヲ付與スルニ在リ

二 講習要領

科目	講習期間	講習員	指導官及同僚官(附)	記事
一 築城土 木工業 一般 二 施設機 械工業 一般	沼津海軍 工作學校 ニ配置セ ラレタル 期間中四 月間	沼津海軍工作 學校築城施設 關係職員ニ配 員セラレタル 特務士官(機、 工)海軍機關 兵曹長及海軍 工作兵曹長ニ シテ既往ニ於 テ築城施設關 係工業ニ關ス ル講習未了者	指導官 沼津海軍工作 學校長 輔佐官(附) 沼津海軍工作 學校職員	本講習ハ講習 員ノ本務遂行 ノ傍ラ實施ス ルモノトシ指 導官ハ講習員 ヲ講習項目毎 ニ二班ニ分チ 適當ニ取替メ 實施スルモノ トス

三 講習實施ノ細目

指導官ハ實施細目ヲ定メ横須賀鎮守府司令官ニ報告スルト共ニ所要ノ向ニ之ヲ送付スルモノトス

四 身上取扱

本講習終了者ハ講習科目ニ應ジ夫々沼津海軍工作學校高等科

五 報 告

指導官ハ講習終了ノ都度海軍工作學校規則第二十條第二項ニ定ムル報告ヲ提出スルト共ニ寫一通ニ專修別講習員名簿ヲ添ヘ關係各鎮守府ノ海軍人事部長ニ之ヲ送付スベシ

○ 通 牒

契八機密第二〇號ノ一四九

昭和二十年一月三十一日

海軍省經理局長  
海軍運輸本部長

關係各廳長殿

○ 船利用狀況ニ關スル件照會

現下ノ船腹事情ニ鑑ミ各廳ニ於ケルC船ノ利用ハ今後益々増大スルモノト認メラレ候處之ヲ利用ノ簡易化及事務處理ノ迅速化ヲ計ル爲陸上運送ニ於ケル經統契約ニ準ジ運賃支拂其ノ他ヲ中央ニ於テ一括處理ノコトト致度ニ付(契約相手方運賃會)之ヲ基礎資料トシテ從來ノC船利用狀況左記ニ依リ二月末日迄ニ通知相成度

尙地方的ニ運賃會其ノ他ト特殊ノ運送契約ヲ締結シアル向ハ其ノ契約内容ニ關シ併テ通知ヲ得度

記

一 調書ハ運營會關係船舶ニ依リタルモノ及其レ以外ノモノ  
 (運營會關係以外ノ分ハ各船主別ニスルコト)ニ分チ本船ニ  
 依ル貨物輸送(人員輸送ヲ含マズ)ニ付調製ノコト  
 二 調製期間ハ昭和十八年度第四々半期ヨリ本年度第三四半期  
 迄トシ各四半期別ニ調製ノコト

三 品名ハ左ノ通分類スルコト

- (イ) セメント
- (ロ) 石炭
- (ハ) 煉瓦
- (ニ) 木材
- (ホ) 雜貨
- (ヘ) 甲種危險品
- (ト) 乙種危險品 (區分ハ別紙第一ノ通)
- (チ) 丙種危險品
- (リ) 其ノ他

四 様式ハ別紙第二ニ依ルコト

(別紙第一)

危險品區分表

一 甲種危險品

- (イ) 火藥類 (船舶安全法危險物船舶運送及貯藏規則第三條ニ  
 ヨル)
- (ロ) 金屬ナトリウム、金屬カリウム、マグネシウム粉末

(ニ) (ハ) ニトロセルロース及び其製劑  
 其他類似危險品

二 乙種危險品

- (イ) 黃磷類、硫化磷
- (ロ) 鹽素酸、鹽類、晒粉、過鹽素酸鹽類、硫酸、硝酸、鹽酸
- (ハ) 過酸化ソーダ、過酸化バリウム、其他酸化腐蝕劑
- (ニ) 二硫化炭素
- (ホ) エーテル、メタノール、トリオール、ソルベントナフサ
- (ヘ) ナフサ類 (チモーゲン)(リゴレン)(ガンリン)(ペンゾー
- (ト) ル、ペンゼン類
- (チ) 毒ガス、壓搾ガス、炭酸ガス、液化ガス
- (リ) フエロシリコン並ニフエロ合金

其ノ他本表ニ掲記セザル可燃性及不燃性壓縮瓦斯及可燃  
 性液體及固體其他類似危險品

三 丙種危險品

- (イ) ニトロ染料類
- (ロ) カーバイト、燐化カルシウム
- (ハ) 原油、輕油、燈油、重油
- (ニ) 其他類似危險品並ニ船體及其他貨物汚損ヲ招來ノ惧レテ  
 ル危險性貨物

(別紙第二)

昭和 年度第 四半期 (船主名) 關係船舶  
 利用狀況調

船 名

品名	数量		積地	仕向地	記事
	容積	噸數			

備考

(船主名) ハ運営會關係船舶ニ依リ輸送シタルモノハ運営會  
ソレ以外ノ船舶ニ依リタルモノハ船主名(例ヘバ東亞海運等)  
ヲ記入ノコト

○雜款

○工員養成所移轉

横須賀海軍施設部工員養成所ハ二月四日左ノ通移轉セリ

舊場所 横須賀市大瀧町横施大瀧町分室内

移轉先 神奈川縣三浦郡葉山町長柄

横須賀海軍施設部第一分室内 (横須賀海軍施設部工員養成所)

○残務整理

海軍電波本部ハ二月十五附廢止残務整理第二海軍技術總務部ニ  
於テ之ヲ行フニ付同部宛書類ハ左ニ送付相成度

東京都目黒區三田十三番地

海軍技術研究所構内第二海軍技術總務部第一課

(海軍電波本部)